

令和4年度

五島市水道事業会計決算審査意見書

五島市監査委員

5五監第151号

令和5年8月25日

五島市長 野口市太郎様

五島市監査委員 橋本平馬

五島市監査委員 荒尾正登

令和4年度五島市水道事業会計決算審査意見について

地方公営企業法（昭和27年法律第292号）第30条第2項の規定により、審査に付された令和4年度五島市水道事業会計決算の審査を行ったので、その意見書を提出します。

| | 目 | 次 |
|----|-------------------|----|
| 第1 | 審査の基準 | 1 |
| 第2 | 審査の種類 | 1 |
| 第3 | 審査の対象 | 1 |
| 第4 | 審査の着眼点 | 1 |
| 第5 | 審査の主な実施内容 | 1 |
| 第6 | 審査の実施場所及び日程 | 1 |
| 第7 | 審査の結果 | 1 |
| 1 | 事業概要 | 2 |
| | (1) 業務状況 | 2 |
| | (2) 建設改良工事 | 3 |
| 2 | 予算の執行状況 | 4 |
| | (1) 収益的収入及び支出 | 4 |
| | (2) 資本的収入及び支出 | 5 |
| | (3) その他の予算 | 6 |
| 3 | 経営成績 | 7 |
| | (1) 収益 | 7 |
| | (2) 費用 | 8 |
| | (3) 損益 | 9 |
| | (4) 供給単価及び給水原価の状況 | 10 |
| | (5) 経営比率 | 10 |
| | (6) 水道使用料収納状況 | 11 |
| 4 | 財政状態 | 12 |
| | (1) 資産・負債・資本の状況 | 12 |
| | (2) 企業債借入状況 | 13 |
| | (3) 財務比率 | 14 |
| 5 | キャッシュ・フローの状況 | 15 |
| 6 | 指摘事項 | 16 |
| 7 | むすび | 17 |

(注意事項)

- 1 文中及び表中の数値・比率は、表示単位未満を四捨五入した。
- 2 構成比率は、合計が100.0になるように一部調整した。
- 3 各表中の符号の用法は、次のとおりである。
「0.0」＝ 該当数値はあるが単位未満のもの
「－」＝ 該当数値のないもの 「△」＝ 比較増減で減の場合
「皆増」＝ 前年度に該当数値がなく、本年度に全額増加したもの
「皆減」＝ 前年度に該当数値があり、本年度に全額減少したもの
- 4 文中及び表中における消費税及び地方消費税の取扱いは、第7-2及び第7-3-(6)の数値は税込み、それ以外は税抜きで表示した。
- 5 文中及び表中における令和3年度全国平均は、総務省自治財政局編「地方公営企業年鑑」の給水人口3万人以上5万人未満の事業体の平均値を引用した。
- 6 文中及び表中の数値は、市長から提出された決算報告書等の数値を引用した。

令和4年度五島市水道事業会計決算審査意見書

第1 審査の基準

この審査は、五島市監査基準（令和2年五島市監査委員告示第1号）に準拠して実施した。

第2 審査の種類

決算審査（地方公営企業法（昭和27年法律第292号）第30条第2項の規定による審査）

第3 審査の対象

令和4年度五島市水道事業会計決算

第4 審査の着眼点

次の着眼点を主眼において実施した。

- (1) 決算その他関係書類が法令に適合し、かつ正確であるか。
- (2) 事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているか。
- (3) 事業が経済性を発揮し、本来の目的である公共の福祉を増進するように運営されているか。

第5 審査の主な実施内容

審査に付された決算報告書、財務諸表及びその他の書類が、関係法令に準拠して作成され、かつ、事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているかを検証するため、その計数を証拠書類やその他の会計書類等と照合するとともに、必要に応じて資料の提出を求め関係職員の説明を聴取するなど、慎重に審査した。

また、事業が経済性を発揮し公共の福祉を増進するように運営されたかを検討するため、事業の経営分析を行い、前年度と比較考察を行った。

なお、審査に伴い公認会計士の専門的知識、経験等を活用し、審査機能の充実・強化を図るため、審査業務の一部を委託し、公認会計士による審査結果を参考にして、監査委員による審査を実施した。

第6 審査の実施場所及び日程

- 1 実施場所 監査委員事務局等及び実地審査においては各事業箇所
- 2 日 程 令和5年5月25日から同年8月17日まで。ただし、貯蔵品実地棚卸しの立会いは、令和5年3月29日、31日に実施した。

第7 審査の結果

審査の結果は、次に述べるとおりであり、上記第1から第6までの記載事項のとおり審査した限りにおいて、令和4年度五島市水道事業会計の決算報告書、財務諸表及びその他の書類は、関係法令に準拠して作成されていた。しかしながら、給水収益の計上に適正を欠いているものがあつた。また、資本的収入の企業債において借入額が決算額と

相違していた。

なお、事業は、企業の経済性を発揮するとともに公共の福祉を増進するように運営されていると認めた。

1 事業概要

(1) 業務状況

令和4年度末における給水人口は34,181人で、給水普及率は99.0%である。また、有収率は72.05%である。

ア 普及状況

表1 給水人口

| 区 分 | 単位 | 令和4年度 | 令和3年度 | 増 減 | 増減率 | 令和3年度 全国平均 |
|---------|----|--------|--------|-------|-------|---------------|
| 行政区域内人口 | 人 | 34,542 | 35,093 | △ 551 | △ 1.6 | - |
| 給水人口 | 人 | 34,181 | 34,732 | △ 551 | △ 1.6 | - |
| 給水戸数 | 戸 | 20,114 | 20,138 | △ 24 | △ 0.1 | - |
| 給水普及率 | % | 99.0 | 99.0 | 0.0 | 0.0 | 90.4 |

令和4年度は、人口減少に伴い、給水人口が551人(1.6%)、給水戸数が24戸(0.1%)減少している。

給水普及率は、前年度と同じく99.0%となっている。

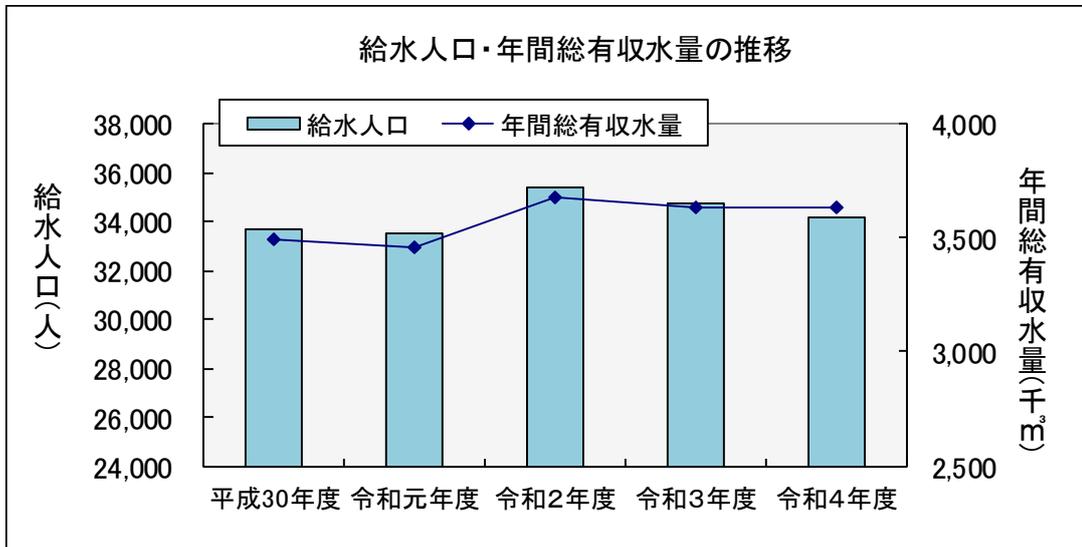
イ 配水量等

表2 配水量等の状況

| 区 分 | 単位 | 令和4年度 | 令和3年度 | 増 減 | 増減率 | 令和3年度 全国平均 |
|------------|----------------|-----------|-----------|--------|-------|---------------|
| 年間総配水量 | m ³ | 5,048,165 | 5,023,208 | 24,957 | 0.5 | - |
| 年間総有収水量 | m ³ | 3,637,130 | 3,634,521 | 2,609 | 0.1 | - |
| 1日最大配水量 | m ³ | 18,533 | 15,506 | 3,027 | 19.5 | - |
| 1日平均配水量 | m ³ | 13,831 | 13,762 | 69 | 0.5 | - |
| 1日平均給水量 | m ³ | 9,965 | 9,958 | 7 | 0.1 | - |
| 1人1日最大配水量 | ℓ | 542 | 446 | 96 | 21.5 | 433 |
| 1人1日平均有収水量 | ℓ | 292 | 287 | 5 | 1.7 | 309 |
| 有収率 | % | 72.05 | 72.35 | △ 0.30 | △ 0.4 | 84.20 |

給水人口は減少しているが、年間総有収水量は2,609m³(0.1%)、年間総配水量は24,957m³(0.5%)増加している。なお、有収率は72.05%で、前年度と比

較して0.3ポイント減少しており、依然として全国平均を下回っている。
給水人口と年間総有収水量の推移は、次のとおりである。



(注) 令和2年度に、簡易水道事業に地方公営企業法の規定の全部を適用（以下「簡易水道事業法適
化」という。）した結果、給水人口及び年間総有収水量が増加している。

配水量：配水ポンプなどから配水管に送り出された水量

給水量：給水区域に対して給水した実績水量

有収水量：配水量のうち、料金収入が得られた水量

有収率：配水する水量と料金として収入のあった水量との比率

(2) 建設改良工事

令和4年度は、改良工事10件を実施し、総事業費は183,262,200円である。

建設改良工事の概要は、新たな建設工事の施工はなく、改良工事では、小田浄水場配水流量計取替修繕、濱ノ畔5号井場内整備工事のほか、富江地区、上大津地区及び一般県道貝津岳濱ノ畔線において、導水管及び配水管布設替工事などを実施している。

また、保存工事（維持補修工事で営業費に分類される）では、玉之浦浄水場No2送水ポンプ取替修繕、大曲取水ポンプNo2電動仕切弁取替修繕及び大窄送水ポンプNo2電動仕切弁取替修繕などを実施している。

2 予算の執行状況

(1) 収益的収入及び支出

収益的収入は決算額 1,093,866,068 円で、予算額を 76,737,068 円上回っている。また、収益的支出も決算額 1,031,429,324 円で、予算額を 50,909,324 円上回っている。

ア 収益的収入

表3 収益的収入

(単位:円・%)

| 区 分 | 予算現額 | 決算額 | 増減額 | 執行率 |
|--------|---------------|---------------|------------|----------|
| 水道事業収益 | 1,017,129,000 | 1,093,866,068 | 76,737,068 | 107.5 |
| 営業収益 | 751,067,000 | 757,755,960 | 6,688,960 | 100.9 |
| 営業外収益 | 266,060,000 | 335,413,883 | 69,353,883 | 126.1 |
| 特別利益 | 2,000 | 696,225 | 694,225 | 34,811.3 |

収益的収入の執行率は 107.5%で、これは営業外収益において固定資産の未収益化分の除去に伴い、受贈財産評価額長期前受金戻入が増加したことが主な要因である。

イ 収益的支出

表4 収益的支出

(単位:円・%)

| 区 分 | 予算現額 | 決算額 | 不用額 | 執行率 |
|--------|-------------|---------------|--------------|-------|
| 水道事業費用 | 980,520,000 | 1,031,429,324 | △ 50,909,324 | 105.2 |
| 営業費用 | 888,933,200 | 940,868,314 | △ 51,935,114 | 105.8 |
| 営業外費用 | 88,535,800 | 90,349,470 | △ 1,813,670 | 102.0 |
| 特別損失 | 212,540 | 211,540 | 1,000 | 99.5 |
| 予備費 | 2,838,460 | 0 | 2,838,460 | 0.0 |

収益的支出の執行率は 105.2%で、これは営業費用において、簡易水道事業法適化の際に除去すべきだった固定資産の除去を行ったことで資産減耗費が増加したことが主な要因である。

(2) 資本的収入及び支出

資本的収入は決算額 206,530,217 円で、予算額を 684,783 円下回っている。また、資本的支出は決算額 569,111,351 円で、不用額が 20,798,649 円となっている。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額 362,581,134 円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 15,112,103 円、減債積立金 57,030,000 円及び過年度分損益勘定留保資金 290,439,031 円で補填している。

ア 資本的収入

表5 資本的収入 (単位:円・%)

| 区 分 | 予算現額 | 決算額 | 増減額 | 執行率 |
|-----------|-------------|-------------|-------------|-------|
| 資 本 的 収 入 | 207,215,000 | 206,530,217 | △ 684,783 | 99.7 |
| 負 担 金 | 4,195,000 | 5,310,499 | 1,115,499 | 126.6 |
| 企 業 債 | 82,300,000 | 80,500,000 | △ 1,800,000 | 97.8 |
| 出 資 金 | 97,147,000 | 97,146,718 | △ 282 | 100.0 |
| 補 助 金 | 23,573,000 | 23,573,000 | 0 | 100.0 |

資本的収入の執行率は 99.7%で、これは消火栓新設に係る市負担金は増額となったが、工事費の実績により企業債の借入額が減額となったことが主な要因である。

イ 資本的支出

表6 資本的支出 (単位:円・%)

| 区 分 | 予算現額 | 決算額 | 翌年度繰越額 | 不用額 | 執行率 |
|-----------|-------------|-------------|--------|------------|-------|
| 資 本 的 支 出 | 589,910,000 | 569,111,351 | 0 | 20,798,649 | 96.5 |
| 企業債償還金 | 358,315,000 | 358,314,219 | 0 | 781 | 100.0 |
| 建設改良費 | 216,595,000 | 210,797,132 | 0 | 5,797,868 | 97.3 |
| 予 備 費 | 15,000,000 | 0 | 0 | 15,000,000 | 0.0 |

資本的支出の執行率は 96.5%で、これは建設改良費において、車両購入の入札に伴い不用額が生じたことが主な要因である。

(3) その他の予算

地方公営企業法施行令（昭和27年政令第403号）第17条に規定する予算に係る事項の執行状況は、次のとおりである。

ア 予算第5条（企業債）

| | | | |
|-------|-------------|-----|-------------|
| 借入限度額 | 82,300,000円 | 借入額 | 82,300,000円 |
|-------|-------------|-----|-------------|

イ 予算第6条（一時借入金）

| | | | |
|-------|--------------|-------|----|
| 借入限度額 | 300,000,000円 | 最高借入額 | 0円 |
|-------|--------------|-------|----|

ウ 予算第8条（議会の議決を経なければ流用することのできない経費）

| | | | |
|-------|--------------|-----|--------------|
| 職員給与費 | 179,109,000円 | 決算額 | 176,268,319円 |
| 交際費 | 50,000円 | 決算額 | 5,370円 |

エ 予算第9条（他会計からの補助金）

| | | | |
|-----|-------------|-----|-------------|
| 予算額 | 16,383,000円 | 決算額 | 22,469,320円 |
|-----|-------------|-----|-------------|

オ 予算第10条（たな卸資産の購入限度額）

| | | | |
|-----|-------------|-----|------------|
| 予算額 | 13,185,000円 | 決算額 | 7,352,620円 |
|-----|-------------|-----|------------|

3 経営成績

(1) 収益

総収益は 1,024,992,045 円で、前年度と比較して 18,618,510 円の増収となっている。

表7 収 益

(単位:円・%)

| 区 分 | 令和4年度 | | 令和3年度 | | 前年度対比 | |
|--------------|----------------------|--------------|----------------------|--------------|-------------------|------------|
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | 増減額 | 増減率 |
| 営業収益 | 689,020,372 | 67.2 | 689,792,637 | 68.6 | △ 772,265 | △ 0.1 |
| 給水収益 | 644,035,305 | 62.8 | 640,898,660 | 63.7 | 3,136,645 | 0.5 |
| 受託工事収益 | 0 | 0.0 | 4,000 | 0.0 | △ 4,000 | 皆減 |
| 簡易水道収益 | 43,338,615 | 4.2 | 44,978,200 | 4.5 | △ 1,639,585 | △ 3.6 |
| その他の営業収益 | 1,646,452 | 0.2 | 3,911,777 | 0.4 | △ 2,265,325 | △ 57.9 |
| 営業外収益 | 335,303,883 | 32.8 | 313,682,075 | 31.1 | 21,621,808 | 6.9 |
| 受取利息及び配当金 | 13,958 | 0.0 | 9,970 | 0.0 | 3,988 | 40.0 |
| 他会計補助金 | 22,229,320 | 2.2 | 18,060,840 | 1.8 | 4,168,480 | 23.1 |
| 長期前受金戻入 | 303,932,993 | 29.7 | 289,252,706 | 28.7 | 14,680,287 | 5.1 |
| 雑収益 | 9,127,612 | 0.9 | 6,358,559 | 0.6 | 2,769,053 | 43.5 |
| 特別利益 | 667,790 | 0.0 | 2,898,823 | 0.3 | △ 2,231,033 | △ 77.0 |
| 固定資産売却益 | 0 | 0.0 | 2,898,823 | 0.3 | △ 2,898,823 | 皆減 |
| 過年度損益修正益 | 313,390 | 0.0 | 0 | 0.0 | 313,390 | 皆増 |
| 貸倒引当金戻入 | 354,400 | 0.0 | 0 | 0.0 | 354,400 | 皆増 |
| 総 収 益 | 1,024,992,045 | 100.0 | 1,006,373,535 | 100.0 | 18,618,510 | 1.9 |

ア 営業収益

決算額は 689,020,372 円で、前年度と比較して 772,265 円(0.1%)の減収となっている。これは、消火栓維持管理に係る一般会計負担金が減少したことに伴い、その他の営業収益が減少したことによるものである。

イ 営業外収益

決算額は 335,303,883 円で、前年度と比較して 21,621,808 円(6.9%)の増収となっている。これは、固定資産の減価償却及び除去が進んだことにより受贈財産評価額長期前受金戻入が増加したことによるものである。

ウ 特別利益

決算額は667,790円で、前年度と比較して2,231,033円(77.0%)の減収となっている。これは、昨年度、市有財産売払いに係る土地売却益があったことによるものである。

(2) 費用

総費用は978,334,230円で、前年度と比較して36,370,019円増加している。

表8 費用

(単位:円・%)

| 区 分 | 令和4年度 | | 令和3年度 | | 前年度対比 | |
|-------------------|--------------------|--------------|--------------------|--------------|-------------------|------------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | 増減額 | 増減率 |
| 営業費用 | 924,108,292 | 94.5 | 882,264,209 | 93.6 | 41,844,083 | 4.7 |
| 原水及び浄水費 | 104,740,158 | 10.7 | 94,508,182 | 10.0 | 10,231,976 | 10.8 |
| 配水及び給水費 | 111,870,162 | 11.4 | 103,683,541 | 11.0 | 8,186,621 | 7.9 |
| 受託工事費 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| 簡易水道費 | 49,570,516 | 5.1 | 51,623,665 | 5.5 | △ 2,053,149 | △ 4.0 |
| 総係費 | 91,827,974 | 9.4 | 92,059,400 | 9.8 | △ 231,426 | △ 0.3 |
| 減価償却費 | 483,932,022 | 49.5 | 535,108,837 | 56.8 | △ 51,176,815 | △ 9.6 |
| 資産減耗費 | 82,167,460 | 8.4 | 5,262,384 | 0.5 | 76,905,076 | 1,461.4 |
| その他営業費用 | 0 | 0.0 | 18,200 | 0.0 | △ 18,200 | 皆減 |
| 営業外費用 | 54,054,698 | 5.5 | 59,597,842 | 6.4 | △ 5,543,144 | △ 9.3 |
| 支払利息及び 企業債取扱諸費 | 48,506,979 | 4.9 | 56,151,654 | 6.0 | △ 7,644,675 | △ 13.6 |
| 雑支出 | 5,547,719 | 0.6 | 3,446,188 | 0.4 | 2,101,531 | 61.0 |
| 特別損失 | 171,240 | 0.0 | 102,160 | 0.0 | 69,080 | 67.6 |
| 固定資産売却損 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| 過年度損益修正損 | 171,240 | 0.0 | 102,160 | 0.0 | 69,080 | 67.6 |
| その他特別損失 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| 総 費 用 | 978,334,230 | 100.0 | 941,964,211 | 100.0 | 36,370,019 | 3.9 |

ア 営業費用

決算額は924,108,292円で、前年度と比較して41,844,083円(4.7%)増加している。これは、電気料金の高騰により動力費が増加したこと、また、固定資産除去に伴う資産減耗費が増加したことによるものである。

イ 営業外費用

決算額は 54,054,698 円で、前年度と比較して 5,543,144 円 (9.3%)減少している。これは、企業債の償還が進んだことに伴う支払利息及び企業債取扱諸費が減少したことが主な要因である。

ウ 特別損失

決算額は 171,240 円で、前年度と比較して 69,080 円 (67.6%)増加している。これは、過年度水道料金還付に伴う過年度損益修正損が増加したものである。

(3) 損益

当年度純利益は、46,657,815 円で、前年度と比較して 17,751,509 円減少している。

表9 損 益

(単位:円・%)

| 区 分 | 令和4年度 | 令和3年度 | 増減額 | 増減率 |
|----------------------------|---------------|---------------|--------------|--------|
| 経常収益 | 1,024,324,255 | 1,003,474,712 | 20,849,543 | 2.1 |
| 営業収益 | 689,020,372 | 689,792,637 | △ 772,265 | △ 0.1 |
| 営業外収益 | 335,303,883 | 313,682,075 | 21,621,808 | 6.9 |
| 経常費用 | 978,162,990 | 941,862,051 | 36,300,939 | 3.9 |
| 営業費用 | 924,108,292 | 882,264,209 | 41,844,083 | 4.7 |
| 営業外費用 | 54,054,698 | 59,597,842 | △ 5,543,144 | △ 9.3 |
| 経常利益 | 46,161,265 | 61,612,661 | △ 15,451,396 | △ 25.1 |
| 特別損益 | 496,550 | 2,796,663 | △ 2,300,113 | △ 82.2 |
| 特別利益 | 667,790 | 2,898,823 | △ 2,231,033 | △ 77.0 |
| 特別損失 | 171,240 | 102,160 | 69,080 | 67.6 |
| 当年度純利益(A) | 46,657,815 | 64,409,324 | △ 17,751,509 | △ 27.6 |
| 前年度繰越利益剰余金(B) | 508,479,792 | 508,470,468 | 9,324 | 0.0 |
| その他未処分利益 剰余金変動額(C) | 57,030,000 | 0 | 57,030,000 | - |
| 当年度未処分利益剰余金 (A)+(B)+(C) | 612,167,607 | 572,879,792 | 39,287,815 | 6.9 |

経常収益から経常費用を差し引いた経常利益は 46,161,265 円で、前年度と比較して 15,451,396 円 (25.1%) 減少している。また、経常利益に特別損益を加えた当年度純利益は 46,657,815 円で、前年度と比較して 17,751,509 円 (27.6%) 減少している。

なお、前年度繰越利益剰余金に当年度純利益及びその他未処分利益剰余金変動額を加えた当年度未処分利益剰余金は 612,167,607 円で、前年度と比較して 39,287,815 円 (6.9%) 増加している。

(4) 供給単価及び給水原価の状況

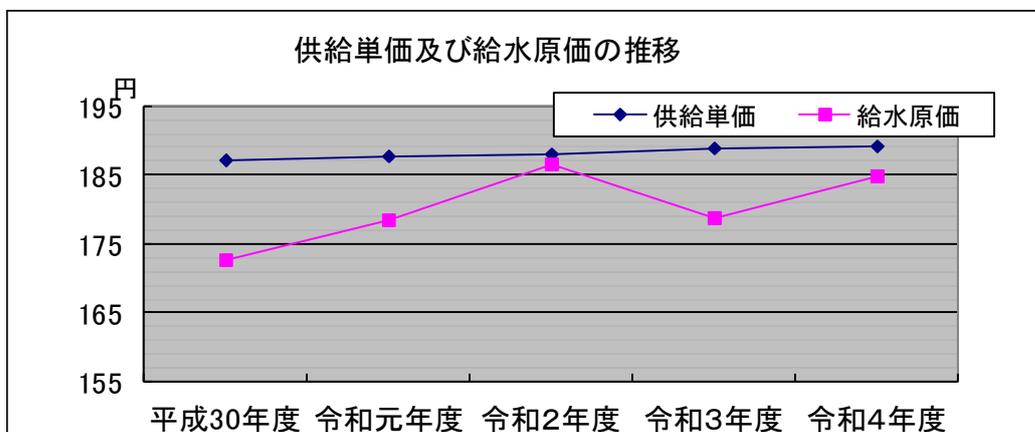
供給単価は 188.99 円、給水原価は 184.80 円である。

供給単価は前年度と比較して 0.28 円増加し、給水原価も前年度と比較して 6.15 円増加しており、その結果、供給単価から給水原価を差し引いた販売利益は 5.87 円減少している。これは、令和 4 年度は資産減耗費等の経常費用が増加したことが主な要因である。

表10 供給単価及び給水原価の推移 (単位:円)

| 区分 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 供給単価 | 187.03 | 187.66 | 188.11 | 188.71 | 188.99 |
| 給水原価 | 172.56 | 178.33 | 186.50 | 178.65 | 184.80 |
| 販売利益 | 14.47 | 9.33 | 1.61 | 10.06 | 4.19 |

(注) 供給単価 … 売れた水 1 m³当たりの収益
給水原価 … 売れた水 1 m³当たりの経費、低いほうが良い



(5) 経営比率

経営比率からみた経営状況は、収益性が低いことを示している。

表11 経営比率

(単位:%)

| 区 分 | 令和4年度 | 令和3年度 | 令和3年度 全国平均 | 備 考 |
|--------|-------|-------|---------------|--|
| 総収支比率 | 104.8 | 106.8 | 109.9 | $\frac{\text{総 収 益}}{\text{総 費 用}} \times 100$ |
| 経常収支比率 | 104.7 | 106.5 | 109.2 | $\frac{\text{営業収益} + \text{営業外収益}}{\text{営業費用} + \text{営業外費用}} \times 100$ |
| 営業収支比率 | 74.6 | 78.2 | 92.8 | $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{営業費用} - \text{受託工事費用}} \times 100$ |

総収支比率は、事業活動に伴う全てのバランスを示すもので、100%以上であれば純利益を生じている。経常収支比率は、特別損益を除いた経常的な収支のバランスを示すもので、100%以上であれば経常利益が生じている。営業収支比率は、収益性を示すもので、100%以上であれば営業利益が生じている。

総収支比率は104.8%、経常収支比率は104.7%で、いずれも100%を上回っており、純利益及び経常利益が生じていることを示している。また、営業収支比率は74.6%で、前年度と比較して3.6ポイント低くなっており、依然として100%を下回っているため営業損失が生じている。

(6) 水道使用料収納状況

水道使用料の収納率は増加傾向にあるが、令和4年度の現年度の収納率は、前年度と比較して0.15ポイント減少している。

表12 水道使用料収納状況

(単位:円・%)

| 区 分 | 令 和 4 年 度 | | | | | 令 和 3年度 収納率 | 令 和 2年度 収納率 |
|-------|--------------|-------------|---------|------------|-------|-------------------|-------------------|
| | 調定額又は 繰越額 | 収入済額 | 不納欠損額 | 未収入額 | 収納率 | | |
| 現 年 度 | 756,108,612 | 748,510,302 | 0 | 7,598,310 | 99.00 | 99.15 | 98.89 |
| 上 水 道 | 708,436,357 | 701,176,877 | 0 | 7,259,480 | 98.98 | 99.15 | 98.91 |
| 簡易水道 | 47,672,255 | 47,333,425 | 0 | 338,830 | 99.29 | 99.21 | 98.63 |
| 滞 納 分 | 13,443,046 | 7,272,275 | 368,776 | 5,801,995 | 54.10 | 49.48 | 56.07 |
| 上 水 道 | 11,771,103 | 6,493,779 | 368,776 | 4,908,548 | 55.17 | 52.82 | 56.93 |
| 簡易水道 | 1,671,943 | 778,496 | 0 | 893,447 | 46.56 | 28.39 | 51.95 |
| 合 計 | 769,551,658 | 755,782,577 | 368,776 | 13,400,305 | 98.21 | 98.02 | 97.76 |
| 上 水 道 | 720,207,460 | 707,670,656 | 368,776 | 12,168,028 | 98.26 | 98.17 | 97.92 |
| 簡易水道 | 49,344,198 | 48,111,921 | 0 | 1,232,277 | 97.50 | 95.93 | 95.51 |

収納率は、現年度分が 99.00%、滞納分が 54.10%、合計で 98.21%となっており、前年度と比較して現年度分は 0.15 ポイント下回り、滞納分は 4.62 ポイント上回り、合計で 0.19 ポイント上回っている。

4 財政状態

(1) 資産・負債・資本の状況

令和4年度末の資産は 8,931,677,402 円、負債は 5,942,795,398 円、資本は 2,988,882,004 円である。

表13 貸借対照表

(単位:円・%)

| 区 分 | 令和4年度 | 令和3年度 | 増減額 | 増減率 |
|----------------|----------------------|----------------------|----------------------|--------------|
| 固定資産 | 7,913,019,141 | 8,286,288,191 | △ 373,269,050 | △ 4.5 |
| 有形固定資産 | 7,697,648,121 | 8,058,303,080 | △ 360,654,959 | △ 4.5 |
| 無形固定資産 | 214,171,020 | 226,785,111 | △ 12,614,091 | △ 5.6 |
| 投資その他の資産 | 1,200,000 | 1,200,000 | 0 | 0.0 |
| 流動資産 | 1,018,658,261 | 1,077,524,219 | △ 58,865,958 | △ 5.5 |
| 資 産 合 計 | 8,931,677,402 | 9,363,812,410 | △ 432,135,008 | △ 4.6 |
| 固定負債 | 2,433,534,794 | 2,675,339,174 | △ 241,804,380 | △ 9.0 |
| 流動負債 | 374,248,771 | 430,736,693 | △ 56,487,922 | △ 13.1 |
| 繰延収益 | 3,135,011,833 | 3,412,659,072 | △ 277,647,239 | △ 8.1 |
| 負 債 合 計 | 5,942,795,398 | 6,518,734,939 | △ 575,939,541 | △ 8.8 |
| 資本金 | 2,280,713,039 | 2,183,566,321 | 97,146,718 | 4.4 |
| 剰余金 | 708,168,965 | 661,511,150 | 46,657,815 | 7.1 |
| 資本剰余金 | 31,601,358 | 31,601,358 | 0 | 0.0 |
| 利益剰余金 | 676,567,607 | 629,909,792 | 46,657,815 | 7.4 |
| 資 本 合 計 | 2,988,882,004 | 2,845,077,471 | 143,804,533 | 5.1 |
| 負債・資本合計 | 8,931,677,402 | 9,363,812,410 | △ 432,135,008 | △ 4.6 |

ア 資産

資産は、前年度と比較して 432,135,008 円減少している。これは、減価償却が進んだことが主な要因である。なお、固定資産のうち投資その他の資産は、地方公共団体金融機構への出資金である。

イ 負債

負債は、前年度と比較して 575,939,541 円減少している。これは、企業債の償還による固定負債の減少及び長期前受金の減少に係る繰延収益の減少が主な要因である。

ウ 資本

資本は、前年度と比較して 143,804,533 円増加している。これは、簡易水道事業法適化に伴い承継した企業債償還元金に係る一般会計出資金の受入れによる資本金の増加及び利益剰余金の増加が主な要因である。

(2) 企業債借入状況

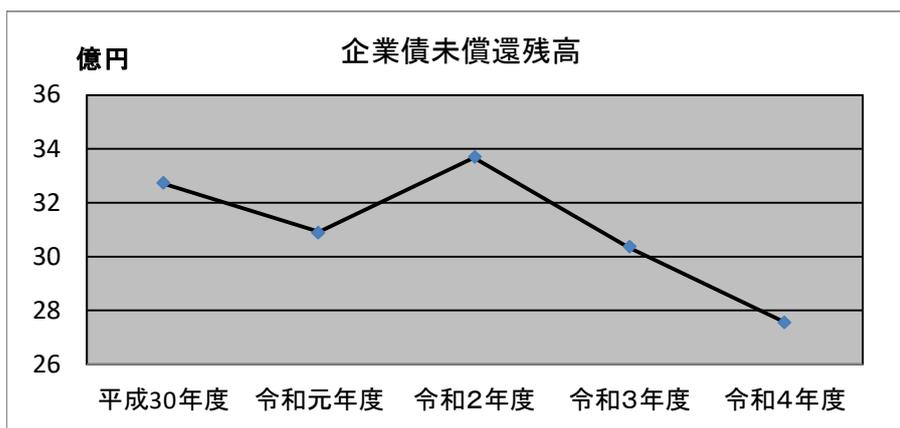
企業債の令和4年度末未償還残高は、2,757,639,174 円である。

表14 企業債借入状況推移表

(単位:円)

| 区 分 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 新規借入額 | 199,700,000 | 114,400,000 | 79,400,000 | 21,500,000 | 82,300,000 |
| 簡易水道 統合増加額 | 0 | 0 | 554,378,549 | 0 | 0 |
| 償 還 額 | 312,887,380 | 294,843,163 | 358,066,834 | 354,379,401 | 358,314,219 |
| 未償還残高 | 3,271,264,242 | 3,090,821,079 | 3,366,532,794 | 3,033,653,393 | 2,757,639,174 |

(注)令和2年度の簡易水道統合増加額は、簡易水道法適化によるものである。



令和4年度は、新規借入額が 82,300,000 円で、償還額は 358,314,219 円、未償還残高は 2,757,639,174 円となり、前年度と比較して 276,014,219 円減少している。

(3) 財務比率

財務比率からみた短期流動性は適正な水準にあるが、長期健全性は低い水準にある。

表15 財務比率

(単位:%)

| 項 目 | 令和4年度 | 令和3年度 | 令和3年度 全国平均 |
|-------------|-------|-------|---------------|
| 自己資本構成比率 | 68.6 | 66.8 | 70.3 |
| 固定資産対長期資本比率 | 92.5 | 92.8 | 90.0 |
| 流動比率 | 272.2 | 250.2 | 338.0 |

自己資本構成比率は、負債及び資本に占める資本金等の割合を示すもので、この比率が高いほど経営の安全性は高いものとされている。令和4年度の比率は68.6%で、前年度より1.8ポイント改善されている。固定資産対長期資本比率は、固定資産の調達自己資本と固定負債の範囲内で行われているかを示すもので、100%を超える場合は不良債務が発生していることを意味する。令和4年度の比率は92.5%で、前年度と比較して0.3ポイント改善しているが依然として高い状況にあり、自己資本構成比率と固定資産対長期資本比率からみた長期健全性は、低い水準にあるといえる。

流動比率は、企業の支払能力を表すもので、100%を下回っていれば不良債務が発生していることになる。令和4年度の比率は272.2%で、前年度と比較して22.0ポイント改善しており、一般的に適正な比率といわれる200%を上回っている。

5 キャッシュ・フローの状況

令和4年度の資金期末残高は、980,608,429 円で、資金期首残高と比較して81,446,106 円減少している。

表16 キャッシュ・フロー計算書

(単位:円)

| 区 分 | 令和4年度 | 令和3年度 | 比較増減 |
|---------------------------|----------------------|----------------------|---------------------|
| 1 業務活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 当年度純利益 | 46,657,815 | 64,409,324 | △ 17,751,509 |
| 減価償却費 | 483,932,022 | 535,108,837 | △ 51,176,815 |
| 固定資産除却費 | 82,167,460 | 5,262,384 | 76,905,076 |
| 賞与引当金の増加・減少(△) | △ 872,000 | △ 248,000 | △ 624,000 |
| 長期前受金戻入額 | △ 303,932,993 | △ 289,252,706 | △ 14,680,287 |
| 受取利息及び受取配当金 | 13,958 | 9,970 | 3,988 |
| 支払利息 | 48,506,979 | 56,151,654 | △ 7,644,675 |
| 有形固定資産売却損益(△は益) | 0 | △ 2,898,823 | 2,898,823 |
| 未収金の増加(△)・減少 | △ 96,493 | 4,052,834 | △ 4,149,327 |
| 前受金の増加・減少(△) | △ 14,256 | △ 9,685 | △ 4,571 |
| 貸倒引当金の増加・減少(△) | △ 700,000 | △ 1,729,000 | 1,029,000 |
| 未払金の増加・減少(△) | △ 19,752,157 | 11,395,919 | △ 31,148,076 |
| 棚卸資産の増加(△)・減少 | 73,392 | △ 219,798 | 293,190 |
| その他資産負債の増減 | 2,354,115 | △ 657,846 | 3,011,961 |
| 消費税及び地方消費税調整額 | △ 2,597,745 | | △ 2,597,745 |
| 小 計 | 335,740,097 | 381,375,064 | △ 45,634,967 |
| 利息及び配当金の受取額 | △ 13,958 | △ 9,970 | △ 3,988 |
| 利息の支払額 | △ 48,506,979 | △ 56,151,654 | 7,644,675 |
| 業務活動によるキャッシュ・フロー | 287,219,160 | 325,213,440 | △ 37,994,280 |
| 合 計 | 287,219,160 | 325,213,440 | △ 37,994,280 |
| 2 投資活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △ 195,238,742 | △ 82,985,561 | △ 112,253,181 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 0 | 2,924,000 | △ 2,924,000 |
| 県負担金収入 | 2,754,977 | 1,322,475 | 1,432,502 |
| 一般会計負担金収入 | 4,246,000 | 1,310,799 | 2,935,201 |
| 一般会計補助金収入 | 240,000 | 240,000 | 0 |
| 合 計 | △ 187,997,765 | △ 77,188,287 | △ 110,809,478 |
| 3 財務活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 企業債による収入 | 80,500,000 | 21,500,000 | 59,000,000 |
| 企業債の償還による支出 | △ 358,314,219 | △ 354,379,401 | △ 3,934,818 |
| 一般会計からの出資による収入 | 97,146,718 | 94,821,634 | 2,325,084 |
| 合 計 | △ 180,667,501 | △ 238,057,767 | 57,390,266 |
| 4 資金増加額(又は減少額) | △ 81,446,106 | 9,967,386 | △ 91,413,492 |
| 5 資金期首残高 | 1,062,054,535 | 1,052,087,149 | 9,967,386 |
| 6 資金期末残高 | 980,608,429 | 1,062,054,535 | △ 81,446,106 |

キャッシュ・フロー計算書は、現金預金（以下「資金」という。）の増加又は減少の状況を、業務活動、投資活動及び財務活動に区分して表示したものである。

業務活動によるキャッシュ・フローにおいては、当年度純利益や減価償却費等により、287,219,160 円の資金が流入している。一方、投資活動によるキャッシュ・フローにおいては、水道施設の改良工事等により 187,997,765 円の資金が流出し、財務活動によるキャッシュ・フローにおいても、企業債償還などにより 180,667,501 円の資金が流失している。

その結果、資金の期末残高は 980,608,429 円で、期首残高に比べ 81,446,106 円減少しており、これは、業務活動で生じた資金が投資活動や財務活動の資金を賄えていないことを表している。

また、前年度と比較すると、業務活動によるキャッシュ・フローでは、固定資産除去費は増加しているものの、当年度純利益や減価償却費は減少している。

一方、投資活動によるキャッシュ・フローでは、改良工事等による有形固定資産の取得による支出が増加し、財務活動によるキャッシュ・フローでは、新たな企業債の借入れによる収入が増加している。

6 指摘事項

(1) 水道料金の算定について

水道料金の算定の元となる量水器の検針は、毎月 17 日から 23 日までの間で行われているが、水道局は、使用者有利の考え方の下、閉栓日が 20 日から末日までの場合は通常の検針日ではなく閉栓日を検針日として料金を算定している。また、開栓日が 10 日から 20 日までの場合は当月の検針は行わず、開栓日から翌月の検針日までの使用水量で料金を算定する運用を平成 24 年 6 月から行っている。

しかしながら、月の中途において水道の使用を開始し、中止し、又は廃止したときの水道使用料は、五島市水道事業給水条例（平成 16 年五島市条例第 265 号。以下「給水条例」という。）別表第 1 備考第 2 項（特別な場合における料金の算定）において、

「(1) 月の中途において水道の使用を開始し、中止し、又は廃止したときの口径別給水使用料は、次により算定する。

ア 使用水量が基本水量の 2 分の 1 に満たないときは、基本料金の 2 分の 1 とする。

イ 使用水量が基本水量の 2 分の 1 を超えるときは、1 月とみなして算定する。」

と規定するから、使用期間が1月に満たない水道料金については、給水条例に基づき算定すべきである。

(2) 企業債の借入れについて

令和4年度の企業債の借入れは、80,500,000円を借り入れるべきところ、誤って1,800,000円を過大に借り入れたため、借入高が82,300,000円になっている。過大な借入れとなったことが令和5年度に判明したため、過大に借り入れた1,800,000円を令和5年度に繰上償還することとしたが、令和5年度予算に措置されておらず支出科目もなかったことから、当該1,800,000円を流動負債の預り金に振り替え、80,500,000円を決算額としている。

企業債は、公営企業を経営する地方公共団体等が、その企業の建設改良費等の財源に充てるために起こした地方債であることから、借入資本金として整理されるものである。したがって、誤って過大に借り入れた企業債については、その一部を繰上償還するとしても、82,300,000円を借り入れたことは事実であるから、82,300,000円を決算額とすべきであり、当該1,800,000円を預り金に振り替えることはできない。

なお、過大に借り入れた金額を繰上償還として1年以内に償還する場合は、貸借対照表において流動負債の企業債として整理すべきである。

7 むすび

(1) 業務状況について

今後も人口減少に伴い、給水人口及び料金収入が年々減少していくものと予測される。また、有収率については、前年度に比べ0.3ポイント低下し、依然として低い水準にあるので、今後も、漏水の原因となる老朽化した配水管の布設替えなど、漏水対策を継続的に実施し、漏水箇所(point)の点検調査や計画的な改良を行い、無効水量の減少に努められたい。

(2) 経営成績について

経営成績については、46,657,815円の純利益を計上しており、前年度に引き続き経営の健全性は保たれている。

水道使用料の適切な収納管理は、経営における重要な事項であるから、債権を適正に管理した上で、五島市債権管理条例(令和4年五島市条例第28号)に基づき実効性のある措置を講じられたい。

(3) 財政状態について

財政状態については、資産8,931,677,402円に対して、負債5,942,795,398円、資本2,988,882,004円で、令和3年度と比較して資産及び負債は減少し、資本は増加している。

剰余金については、令和4年度決算においても黒字であったことなどから、令和5年度に減債積立金に積み立てることとしている。今後も、財政状況の的確な把握と分析を実施し、将来の事業方針に基づき適切な処分を図られたい。

企業債については、計画どおり償還されており、前年度と比較して企業債未償還残高は減少している。今後も、新たな借入れの抑制や計画的な償還により企業債未償還残高の減少に努め、堅実な企業債の活用を図られたい。

(4) 今後の経営について

令和4年度の経営収支においては事業の独立採算制が保たれているが、今後も、人口減少に伴う料金収入の減少及び老朽化した施設の大量更新時期の到来などが想定されており、水道事業の経営環境は厳しさを増していくものと思われる。

今後の事業運営に当たっては、平成31年3月に策定した五島市水道事業ビジョンに定める「安全で良質な水を安定して供給しつづける水道」の実現に向けて、令和2年3月に策定した五島市水道事業経営戦略等に基づき水質管理の適正化、官民連携の推進等による施設の適切な維持管理及び業務の効率化を図るとともに、施設の長寿命化や計画的な更新により支出の抑制に努め、公営企業として健全な事業経営を遂行されるよう望むものである。